

## 平成30年度第2回津島市地域公共交通会議 議事録

### 1 開催日時

平成30年12月26日（水） 午後1時56分から3時35分まで

### 2 開催場所

津島市役所 3階 市長公室

### 3 出席者

別紙「平成30年度第2回津島市地域公共交通会議出席者名簿」のとおり

### 4 議事

- (1) 平成26年7月からのふれあいバス運行実績について（報告）
- (2) ふれあいバスに関するアンケートの結果について（報告）
- (3) ふれあいバスのルート見直し等について（協議）

### 5 会議資料

- 資料1 平成26年7月からのふれあいバスの運行実績について  
資料2 ふれあいバスに関するアンケート結果  
資料3 平成26年7月改正時から現在までの要望・意見一覧  
資料4 津島市巡回バスの運行ルート等の見直しの検討について(スケジュール案)

### 6 会長挨拶

#### 【会長】

本市では、市民の移動支援のために平成13年10月に津島市巡回バスの試行運行を開始し、直近では、平成26年7月にルート改正等をし、翌年1月に約4年半が経過することになる。

本日は、平成30年度までのふれあいバスの利用実績と前回の会議でご意見をいただいた市民アンケートを実施した結果をご報告申し上げます。

また、それらを踏まえたふれあいバスのルート等の見直しについて、皆様からご意見をいただきたいと思う。

議題のほかにも地域公共交通全般に関して活発な意見交換の場にもさせていただきたいので、よろしくお願い申し上げます。

### 7 議事要旨

- (1) 平成26年7月からのふれあいバスの運行実績報告について（報告）

#### 【事務局】

《資料1を説明》

#### 【構成員】

Aコースの利用者が30年度は増加しているとのことであるが、その要因等は検証しているか。

**【事務局】**

特段何かがあって、特定の停留所の乗降数が突出して増えているような形は利用実績からみられなく、各停留所の利用者が全体的に増加しているが、理由までは、特定できていない。

**【会長】**

5月等のイベント等で増えている可能性はないか。

**【事務局】**

どの停留所も各月で全体的に増えており、イベントだけが理由で増えているということはないと思う。

**【構成員】**

津島市のふれあいバスを運行している名鉄バスとして発言する。

資料の平成30年度と29年度を比較すると、市民病院、ヨシヅヤ本店での乗降が多く、だいたいの利用者の目的地となっている。各停留所からご高齢の方などのお客様がそこまで利用されていることがわかる。

増加理由として、昨今、運転免許証の返納やなるべく公共交通を使おうという動きが出てきているのではないかと思う。

今までは、市民病院やヨシヅヤ本店に自家用車で行かれていた方がAコースでいうと1時間に1本程度走っていることもあり、バスを使うお客様が増えてきた、周知されてきたのではないかと事業者側からは思っている。

**【構成員】**

バス停の乗降者数の分析を細かくしているのはすごいと思うが、この中には、たくさんの方が住み、利用が多く想定される地域でたくさん利用されているのと、人口が少ない地域だが、なんとかバスを使っているところがあると思う。

逆に、たくさん人が住んでいるのにあまり使われていないとか、住んでいる人が少ない地域だけど、たくさん使われているなど、利用動向について、常識で分からないことが出てきたら、そういった分析をやる必要がある。地域の特性をしっかりと把握してデータをみていくと、いろんな意味が分かると思う。

単に利用者数が多い、少ないで、少なければ即廃止しましょうというのはやってはいけないことである。今回のデータを使う上では、そのようなことと一緒に本当に必要なバス停かどうかの議論をしなければいけないと思う。

データの使い方に気になる点があるので、慎重に使ってほしい。

**【会長】**

事務局には、その辺の分析等をお願いする。

**【事務局】**

わかりました。

**【構成員】**

細かくバスの利用者数の分析をされているが、今度は、人の流れを見ていかなければいけない。やはりOD調査が必要になってくると思うが、現在のスケジュールでは、O

D調査が見当たらないので、予算のことがあるかと思う。そこで、便ごとの乗降車数を見ると、人の流れ、動きというのが見えてくるのではないかと思うので、その辺りの分析を時間が掛かって大変だと思うが、よろしく願います。

**【事務局】**

承知した。

**【構成員】**

資料では、かなり細かい数字が並んでいるが、どのような調査方法で資料を作成したのか。

**【事務局】**

データの作成については、各バス停の乗降者数を毎月名鉄バス(株)津島営業所から報告いただいているので、それを積み上げている。

(2) ふれあいバスに関するアンケートの結果について（報告）

**【事務局】**

《資料2を説明》

**【構成員】**

以前改正を検討した際には、途中で手を挙げてバスが止まってもらえないかという意見がかなり出たが、今回のアンケートの回答の中にも、そういった回答はあったか。前回は、足の悪い人がバス停まで歩くのに時間が掛かり、その間にバスが出発してしまったという方などから意見があった。

**【事務局】**

「ルート上なら、どこでも乗降車できるように」という意見は、今回もあった。資料2の31ページなどの運行に関する意見の中にデマンドやドアツードアに区分して記載している。

**【構成員】**

全部でなくて良いが、年齢別で集計すると良いと思う。例えば、バスを利用される方は高齢者が多いと思われるので、年齢別で集計すれば高齢者の動向みたいなものが掴めるのではないかと思う。それによって、バス停をどこに置くと良いかなど、どこに、どういうふうに検討したらよいかというところもでてくるかと思う。

**【事務局】**

アンケートでは、「年齢」と「住んでいる小学校区」を聞いているので、年齢別、地区別の集計結果を作成し、コースなどの具体的な検討を進める上で参考にできれば良いと考えている。

**【構成員】**

アンケートの調査票は、8小学校区に分けてして送付していると思うが、アンケートを送付した15歳以上の市民の年齢ごとと人数内訳はわかるか。例えば20歳の人何人など、どのように区分をして送付したのか。

**【事務局】**

手元に資料がないので、正確な人数を今すぐにはお伝えできないが、アンケートの調査票は、人口按分により各小学校区それぞれ何人分送付するか決めて、年齢順に並べた

小学校区ごとの名簿を上から等間隔で抽出する方法で送付対象者を抽出している。これにより、小学校区、年齢ともに人口割合に近くなるように調査票を送付している。

**【構成員】**

郵送調査分については、回答された方の約40%が65歳以上、広報紙及びインターネット分については、65歳以上が約63%である。警察への運転免許証の返納では、高齢者を65歳以上としていることで考えると、24ページの自主返納の意向とその後の手段のところでは、ふれあいバスのアンケートと言うこともあり、多少高い数値になっていると思われるが、返納者の多くがふれあいバスを利用するとなっている。しかし、7ページの目的地まで利用する実際の移動手段をみると、1番多いのが自分の運転、返納して自分の運転が出来なくなると、その次に多いのが家族等の運転、自転車となっており、ふれあいバスが少し低く、返納のアンケートと矛盾的なところがある。

警察の方で幅広く調査しているものでは、1番目は家族の運転での移動、その次は自転車、その次にコミュニティバスを含めたバス、地下鉄、鉄道、公共交通利用となっている。公共交通手段は、例えば名古屋市内のように交通網が発達している地域では、広く利用されているが、公共交通網が発達していないところでは、家族の運転や自転車というのがやはり非常に多くみられると思う。

行き先は、市役所、図書館、ヨシヅヤ、病院が多く、時間帯は、午前中の時間帯に多くの方が利用され、昼以降は、少なくなっている。高齢者の移動ということなら、午前中に特化して、もっと便を増やすとか、昼以降は減らすなども1つの考えとしてあるかと思う。

**【構成員】**

降雪で運行不能になった場合や2時間、3時間、様子を見てから運行するとなった場合、利用者へのバスの運行の連絡等は全くないのか。

**【事務局】**

降雪とは少し異なるが、今年の台風でいえば、名鉄バスから台風のため、明日は運休になるかもしれないという事前連絡を市が受け、前日には、市のホームページに運休の可能性がある旨を掲載している。その後、台風当日に運休の決定があり、即座にホームページで運休のお知らせをした。

降雪についても、運休等の情報は市のホームページで随時お知らせすることになると考えている。

**【構成員】**

つまり、ホームページをみればわかるということか。

**【事務局】**

はい。

また、台風の際には、利用者が多いヨシヅヤ本店の店舗にも連絡している。

**【事務局】**

その他にバス停に名鉄バス津島営業所の電話番号が記載されているので、お電話で運行しているかどうかのお問い合わせをいただければ、回答させていただく。なるべくぎりぎりまで運休しないように運行することとしており、全てのバス停にお知らせを貼ることができないので、心配に思われたときは、まずお電話でご確認いただきたいと思う。

**【構成員】**

利用している人は、電話番号をちゃんと控えておきなさいということか。

**【事務局】**

電話番号については、お配りしている時刻表にも書いてある。また、市役所にかけていただいても同じように情報提供させていただく。

**【会長】**

今は台風の話であったが、雪の場合について、名鉄バスはどのように対応されるか。

**【構成員】**

雪での一般路線の運休は、私の経験上では、今までになかったと思う。

高速道路が通行止めになった場合などは、高速バスなどを運休にすることはあるが、一般路線の場合は、かなりの遅延は出てしまうと思うがチェーンを巻いて、今までは運行してきている。

ただし、最近の異常気象で今までと比べものにならない大雪になることも考えられる。台風でも、今までは、余程のことがない限り運休していなかったが、今年からすごい台風が来るとわかっていれば、計画的に運休をさせていただいている。雪に関しても、あらかじめ天気予報等で、かなりの大雪が予想されることがあれば、名鉄バス社内の防災会議で早めに運休を決める場合があるので、そのような場合においても津島市と連携し、早めに連絡できればと思っている。

**【事務局】**

市の方もそれに合わせて、ホームページに情報を掲載する。併せて問い合わせの対応も行う。

**【構成員】**

資料1のデータと資料2のアンケート結果の関係でいうと、資料1は、過去の状況をずっとみていて、利用者が減っているわけではなく、増えているので、現状、ある面では成功していると言える。利用者が減っているなどで失敗だと思ったら、見直しという行動に走るのはわかるが、一応、ずっとうまくいっている。このときに今回の調査をやったということは、資料1で今の路線で使える人は、うまくいっていると言える。実際に前からいろいろ話が出ているが、今のふれあいバスの恩恵を受けていない市民もいると思う。その人たちの意見も拾うという形で今回のアンケートが有効になるのではないかと思う。今のシステムが良いという評価も大事だが、まだまだ足りないところがあるのではないかというところをみて、その人たちの意見はどうなるのか、というのをうまく拾っていただきたいと思う。

**【会長】**

数的には、良いですが、おっしゃられたとおりに利用されていない、若しくは、利用したくてもできない方々をどうしていくのかというところである。

**(3) ふれあいバスのルート見直し等について（協議）****【事務局】**

現在のふれあいバスのルート設定では、交通弱者などのために「公共施設をより利用しやすくすること」及び「通院、買い物等の外出支援を行うこと」を目的にして、公共

施設、病院、買い物、駅を2台の車両でできるだけ広範囲にカバーするように運行していると考えている。この点でいえば、アンケートの経路に関する満足度は、低かったが、アンケート中の行きたい施設が多かった、公共施設、病院、買い物、駅については、既に巡回できていると考える。

しかしながら、アンケートの満足度では、運行本数や運行時間に不満を感じている方も多く、現行のルート上で利用できない方がいる中で、利用者がかなり少ないバス停もあり、効率的でない部分があるので、そのあたりは検討する必要があると考えている。

なお、見直しに際しては、厳しい市の財政状況があるので、経費負担の増額が難しい状況にある。アンケート結果でも過半数が市の負担は現状維持と回答していることから、今以上に経費が増額にならないように努める必要がある。このため、車両の増台などは行わずに、購入してから、まだ5年程度の現行の2台の車両を今後も使用していくことを想定している。

また、現行のダイヤについてだが、時間的なゆとりがなく、交通渋滞等により多少の遅延が発生した場合に法令で定められた運転手の休憩時間の確保が難しい状況になっていたため、今年度10月から運転手の休憩時間を十分確保できるように、乗務に係る人員を増員して運行している。

この問題に関しては、ダイヤを見直して、根本的に解決できたわけではないので、遅延の発生や運行途中での運転手の交代に係るバスでの回送、午後の最終便が津島駅に到着してから大坪の営業所に回送するまでの間に、津島駅で20分間の休憩が必要となるなど、上乗せの経費負担が発生しているので、それらを改善する必要があると考えている。

なお、公共交通機関としてこれまでに多く多くの市民にふれあいバスを利用してもらえるように曜日運行から毎日運行に変えた経緯がありますので、曜日運行に戻して、運行本数や新たな巡回経路を増やす等は、検討の対象外にしたいと考えている。

運行のスタンスとしては、アンケート結果では、ふれあいバスの運行意義について、多くの市民が「車を持たない高齢者、障がい者、子どもなどの外出や社会活動への参加促進のために重要である」と認めていることから、従来通り、交通弱者などのために「公共施設をより利用しやすくすること」及び「通院、買い物等の外出支援を行うこと」を目的に運行したいと考えている。

このようなことから見直しの方針としては、現行の4ルートを基準に乗降者数が少ないバス停を中心にルートの見直しの検討を進めたいと考えている。

その中で資料3の改正時からの25件の要望・意見やアンケートの意見の中から所要時間の短縮や個人病院等の要望場所の近くにバス停を寄せるなど可能な限り市民の意見を反映させ、また、道路・交通状況の変化等も勘案して検討していきたいと考えている。なお、検討の際には、アンケート結果については、小学校区別集計、年齢別集計した結果も利用することを考えている。

《検討の進め方について、資料4により説明》

運賃については、アンケートでも多様な意見があったので引き続き検討していきたいと考えているが、検討委員会で検討するという事は考えていない。

## 【会長】

見直しの検討について、事務局から説明があったが、市が財政的に厳しいということがある。

今、2台の車両で運行している。アンケートでは、運行本数を増やしてほしい、時間帯を見直してほしい等々の意見があったが、やはり車両が2台しかないという中で、現状の4ルートをベースに見直しをしていきたいと考えている。

さらに、ふれあいバスというのは、日常生活の活動支援や公共施設を利用していただくためにスタートしたという背景があるので、これが目的となる。併せて、運行を委託している名鉄バスとの話合いの中でも、渋滞等による遅延、休憩が出来ないという課題が出ているので、その辺もスムーズなルートにしていきたいということも考ないといけない、というのが事務局からの説明であった。

これに併せて、アンケート結果、今まで市民の方から頂いていた要望等を踏まえて、所要時間の短縮やバス停の位置等々の検討を行うことを考えているということである。こうした観点で見直しをしたいという説明であるので、ご意見等あれば、お願いしたいと思う。

## 【構成員】

今回の見直しでどういう方向で見直しをするのか、台数の話、コースの話大きくはこの2つが前提になるであろうと話があった。その中で2点ほど指摘をさせていただく。

今回の見直し、巡回バスそのものは、津島市のふれあいバスが中心ということで、既存の民間バスである名鉄バスとの役割分担がどういう形になっているのか、いまいちよくわからないというのが一つある。おそらく市民の方でも名鉄バスの近くに住んでみえる方は、それなりの利用はできるだろうし、逆にないところは、ふれあいバスなどに頼らざるを得ない。そういったことをどういう形で市民の方にご理解をさせていただくのか。やみくもに路線をたくさん増やして頻度を上げれば、利用者の方にとってはありがたい話で良いが、財政的なことを考えれば、それは、なかなか難しい話だと思う。

既存の交通機関との役割分担、バランスも考えていく必要があると思う。

もう一点は、タクシー事業者の団体として、意見を言わせていただきたいと思う。

タクシーの組織では、タクシーがどうやって地域の交通にとって役に立てるか、貢献できるか、今その取組を計画としてまとめるということを全国で同じようにやろうとしている。タクシーと言っても5人乗りのいわゆるセダン型の車もあれば、乗車定員10人乗りのお客様が9人乗れるワゴンタイプのもので、乗合型というのもできるし、路線を定めることなく、それこそドアツードアということも可能である。最終的には、来年の秋ごろに計画のとりまとめになると思うが、タクシーに何ができるのかというのは、地域の皆様方の要望、ニーズ、また、どんな課題があって、それに対してタクシーがどのように活躍できるかを地域の皆様方と一緒に考えていきたいというのがタクシーの組織が取り組んでいる内容である。既に愛知運輸支局を通じて、名古屋交通圏17市町村に対して課題出しをお願いしており、その課題をタクシー事業者が共有することにより、タクシーから何か良い提案ができるかどうか、また、自治体の皆様方から何かタクシーに期待することがあるのか、ないのか、各自治体の中でタクシーを使った計画が可能か

どうかなどを総合的に探っていこうと今やり始めたところである。

ふれあいバスは、バス車両が2台あり、4コースを基本とするとの考えとは相容れない部分があるのかもしれないが、その検討の俎上に乗合型タクシーを使った輸送などを検討委員会の中で1度ご検討いただきたいと思う。さらには、タクシーからどういう話が聞きたいのか、これは課題出しの調査の中にその項目を入れているので、その調査結果を全体的に見て、それだけでおそらくは、タクシーの提案は出来ないと思うので、直接自治体を訪問していろんな話を聞く、場合によっては、市長にお会いをすることも含めて、何がタクシーにできるかということ在全国で今やろうとしている。このことについて、是非ご配慮いただきたいと思う。

#### 【会長】

名鉄バスとふれあいバスの役割分担、バランスの関係とタクシーの組織が計画を作るにあたって自治体とも協力をしていくということである。

#### 【構成員】

今回のアンケートは、ふれあいバスに関するアンケート調査となっているが、幅広くいろいろ聞いている。今のシステムのもの、プラス、何が足りないかというアンケートからわかる話と今おっしゃられた話とは同じ方向性であり、まさにそのような話が大事だと思う。

津島市だけの問題ではないが、足りないところを申し上げると、前から言われているが、市民病院には、他の市町村からも人が流れて来るので、そのようなシステムとの整合性もあるし、逆に津島市民が特に南のJRと近鉄の駅に行きたいという話も結構強く出ており、それをどうするという話は永遠の課題ですが、とにかく1回検討しなければいけないということも出て来る。単に4路線の話に留まるのは、もったいないと思うので、毎回議論して、毎回同じ結論になるかもしれないが、とにかく議論することは大事だと思うので是非そのあたりをもう少しお願いする。

#### 【構成員】

少し補足させていただくと今言われたように、同じ海部地域だと海南病院に複数の市町のコミュニティバスが乗入れをしており、それぞれの利用者数が伸びているという話を聞いている。津島市から少し遠いかもしれないが参考にしてはどうかと思う。

#### 【構成員】

それでいうと、長久手市の愛知医科大学が1つのバスセンターになっており、名鉄バスが新規路線を藤が丘から乗り入れたこともあるが、長久手のNバス、尾張旭市のあさび一号、瀬戸市の巡回バスもすべて乗り入れており、病院の中の同じ場所で名鉄バスと3つのコミュニティバスが乗継ぎできるバスセンターになっているかなりいい話がある。病院である必要はないが、周りの市町との共同というのは少しずつ愛知県の中でも始まっているので、大いに参考になる話だと思う。

#### 【構成員】

1つの病院にいくつものバスが乗り入れるというのはいいことなのか。

#### 【構成員】

愛知医科大学は、長久手市の中心から少し離れ、尾張旭市に少し近いところにある。救急体制も整い地域の医療圏の中心的な病院であり、やはりそこに行きたいという話が

ある。そうなってくるとまちの声、ニーズはあるという形になる。自治体はどうしても自分の市町を考えるが、医療圏という形で考えれば、いろいろと違う圏域をもっている、その辺をにらんでという話も大事だということである。

#### 【構成員】

市の寄り合いにバスで行ったのは良いが、帰りはバスで帰って来られないという意見がアンケート結果の中にあっただと思うが、例えば、バスで行き、バスで帰って来られるような時間に開催できるようにスケジュールを配慮するなど、津島市役所の横の繋がりで解決できる問題だと思う。バスを利用するために、市として取り組んでいただきたいと思っているので、よろしくお願いします。

#### 【構成員】

スケジュールの中では、運行計画の合意が最初から書面協議となっている。細かいところを整理しきれなくて最終的に書面協議ということはあるのかと思うが、合意をとる時点では、会議で道路管理者や公安委員会と話し合いをして合意を得ていただく形になるので、よろしくお願いします。

#### 【事務局】

承知した。

#### 【会長】

協議事項のふれあいバスのルート見直し等については、見直しの検討を進めさせていただくということで、よろしくお願いします。

## 8 その他（連絡・告知事項等）

### (1) 県内の交通事故情勢と運転免許証の自主返納について

#### 【構成員】

県内の交通事故情勢と運転免許証の自主返納について少し話しをする。

県内の事故情勢としては、昨日現在、183名の方が交通事故で尊い命を失われている。昨日現在で前年比マイナス11名であるが、6月9日以降全国ワースト1となっている。今、ワースト2が千葉県で、昨日現在では3名差という状況である。コミュニティバスの利用割合の高い高齢者の死者は、183名のうち、99名の方であり、半数以上である。今年、名古屋市内で多く発生しているのが特徴になる。

高齢者の比率を津島市だけで説明すると、津島市の全体人口は、10月末時点で61,960名であり、そのうち65歳以上の高齢者は、18,260名で構成率は約29%となる。これは、県内の市町村で9番目に高いとのことである。今度は、津島市の運転免許を持ってみえる方だが、全体で42,924名であり、このうち70歳以上の方は、6,928名で構成率は約14%となる。免許証保有者のうち、今年10月までに、運転免許証の返納をされた65歳以上の方は164名で、65歳以上の免許証保有人口の約1.53%となっている。まだまだ、運転免許証の返納率は非常に低いと言っていると思う。

資料2のアンケート結果の12ページの部分で「車を持たない高齢者等の移動手段として重要」と考える方が約7割いることや加齢により運転の技能が衰え、運転免許証の自主返納者がどんどん増えてくることが考えられる。

今後、運転免許証の返納によって代替の足となる民間の公共交通機関やコミュニティ

バスの活用率が非常に高くなってきているのではないかと考えている。このため、警察では、コミュニティバスを非常に高い位置づけで考え、いろんな協議に参加させていただいているところである。

将来的に免許証がなくなり、家族の人が送迎する。家族がいないときは、自転車を使用する。津島市内では、自転車の事故が県下の平均より非常に高い。そのようなことから「自転車よりも公共バスなども利用してください。」という声掛けもしているところである。

#### 【構成員】

先ほど免許証の返納が164件とあったが、男女別の数はわかるか。

#### 【構成員】

男女別は、わからない。年齢別ならわかる。

年齢別でいうと、65歳未満が4名、65歳から69歳までが9名、70歳から74歳までが21名、75歳から79歳までが52名、80歳から84歳までが54名、85歳から89歳までが16名、90歳から99歳までが8名となる。

免許保有者数でいえば、85歳から89歳までが1,083名、90歳から94歳までが129名、95歳から99歳までが9名、津島警察署管内の3市1町で100歳以上の方で、まだ免許証を持ってみえる方も1人みえる。津島警察署管内では、167,800名の免許保有者がおり、そのうちの40,526名が65歳以上の高齢者で、全体の24%と多くの高齢者が免許証を持っている。

お配りした資料は、1月の交通事故防止のポイントと裏面が高齢者の安全対策情報になっている。参考にさせていただきたいと思う。

特に4月は、中旬以降に例年激増する形になっている。その下の部分にあるようにお年寄りの事故は、多いもので約8割、夜間が約8割となっている。本日お集まりの方は、公共交通も含めての有識者の方であるので、お年寄りの方に反射材の着用等を声掛けしていただければ幸いに思う。

## 9 閉会挨拶

#### 【会長】

地域公共交通の問題というのは本当に難しく、市民の皆さんからもさまざまなご意見をいただいているところである。

ふれあいバスにおいても、厳しい市の財政状況の中、より多くの方にご利用いただけるよう改善していくので、今後ともご指導、ご協力くださるようお願いを申し上げます。

なお、今後の公共交通会議の開催予定につきましては、事務局説明やスケジュールにありますとおり、来年度6月頃に開催させていただきたいと思っております。また、ふれあいバス検討委員会を開催するにあたりまして、随時、会議の開催させていただくことがあるかもしれませんが、その場合も、事務局からご連絡させていただきますので、よろしくお願ひする。